

クラウドの常識・非常識

クラウド

ICTシステム環境の最適化

進化の激しいITの世界では、少し前まで「常識」だったことが「非常識」に変わることが珍しくありません。多くの企業で使われるようになった「クラウド」も例外ではなく、IoTやAI、ブロックチェーンやFinTechといった新たなトレンドを飲み込みながら、これまでの常識を覆して進化し続けています。果たして、今どきのクラウドはどうなっているのでしょうか。詳しく見ていきましょう。

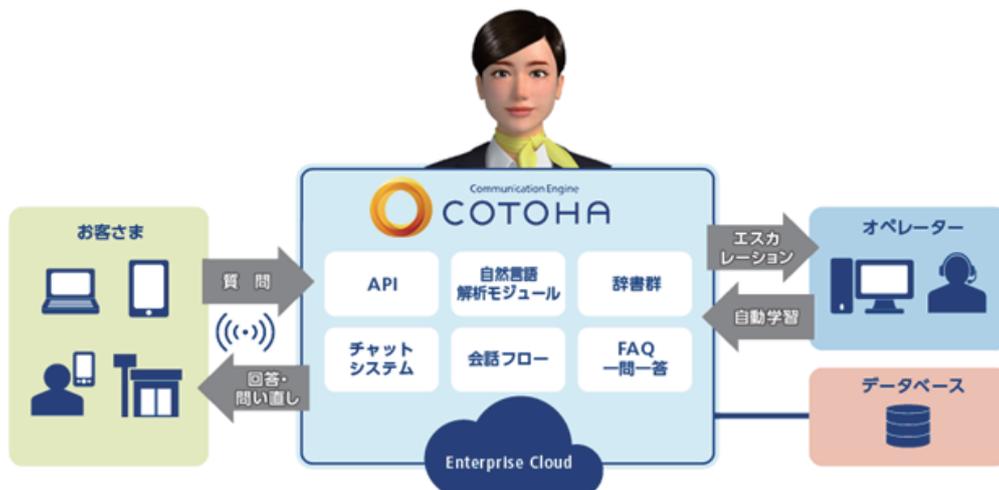
常識・非常識 1

AIのクラウド化はまだまだ先?

クラウド上でのAI提供はもう始まっています!

AI(Artificial Intelligence : 人工知能)はすでに実用化段階に入りつつあり、顧客からの問い合わせ対応にAIを活用する、あるいは従来は人間が行っていた判断をAIに任せるといった事例が続々と現れています。既存の業務を効率化したり、あるいは新たなビジネスを検討したりする場面において、AIが重要なキーワードとなるのは間違いないでしょう。

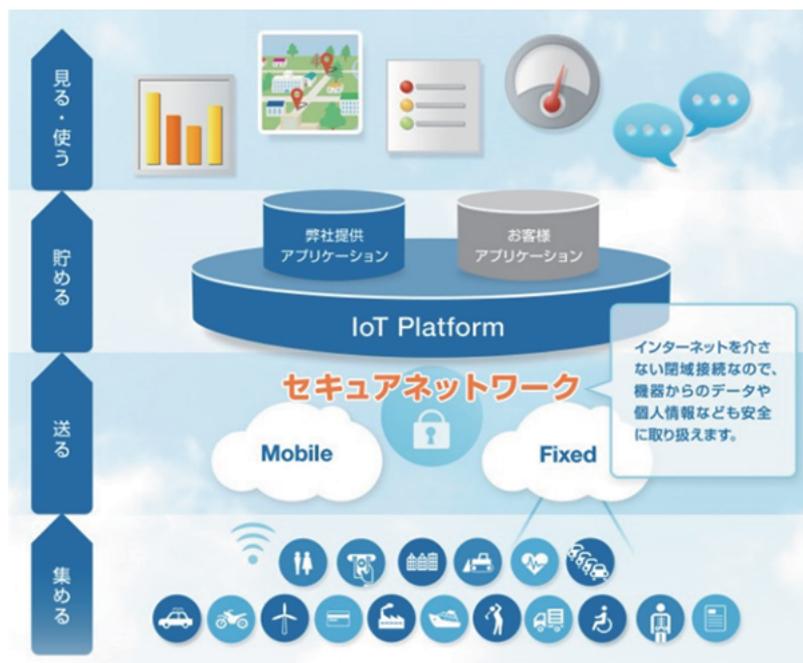
さらに最近では、AIの機能をクラウド上で提供するサービスが登場し、負担を抑えてAIを活用できる環境が整いつつあります。たとえばNTTコミュニケーションズでは、自然な話し言葉や書き言葉を理解し、人との高度なコミュニケーションを実現する「Communication Engine COTOHA (<http://www.ntt.com/business/services/application/ai/cotoha.html>)」をクラウドサービスとして提供しています。このように、最先端のテクノロジーを自社のビジネスで活用するといった場面においても、クラウドが果たす役割は大きいと言えます。



IoTで得られるビッグデータにはクラウドが最適！

あらゆるモノがインターネットにつながる「IoT」(Internet of Things)の技術を利用し、さまざまな機器をリアルタイムに監視・制御するといった取り組みを進める企業は少なくありません。たとえば工場内で使われる製造機器のデータをネットワーク経由で取得し、そのデータの分析によって故障予知や品質管理が実現すれば、企業にとって大きなメリットが生まれるためです。

このようにIoTで得られる大量のデータ、いわゆるビッグデータの解析において大きな役割を果たすのがクラウドです。“使った分だけ支払えばよい”クラウドであれば、大量のデータの蓄積や解析を適正なコストで行えるほか、データ量の増減にも柔軟に対応することができます。NTTコミュニケーションズの「IoT Platform」など、IoTに特化したクラウドサービスにも注目です。



クラウドで提供されているのは仮想サーバーだけ？

物理サーバーをクラウド上で提供する「ベアメタル」が注目されています！

サーバーリソースをクラウド上で提供するIaaS (Infrastructure as a Service)において、これまで一般的に提供されていたのは仮想サーバーですが、昨今では物理サーバーをクラウド上で提供する「ベアメタル」と呼ばれるサービスが注目を集めています。仮想サーバーと異なり、物理サーバーではハードウェアが持つ性能をフルに発揮することが可能なため、大量のトランザクションを高速に処理する必要があるなど、パフォーマンスに対する要求が高い用途でベアメタルは最適な選択肢となります。

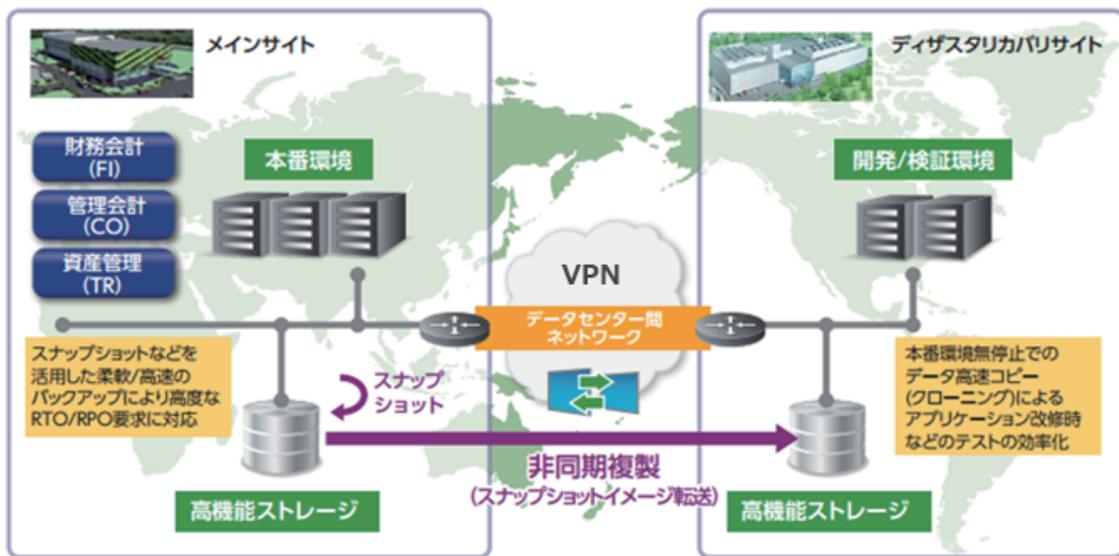
ベアメタルを活用すれば、クラウド上に独自のプライベートクラウドを構築することも可能です。自社だけで利用するプライベートクラウドを構築したいが、オンプレミスでの運用は負担が大きいなどといったケースにおいて、ベアメタルクラウドは有効なソリューションとなるでしょう。



多くの企業で基幹系システムのクラウド化が進んでいます！

クラウドサービスが登場したばかりの頃、「メールやグループウェアといった情報系システムはクラウドに移行してもよいが、基幹系システムはセキュリティや安定性が心配」といった声がよく聞かれました。しかし現在では、多くの企業が基幹系システムの運用にクラウドサービスを活用しています。

基幹系システムをクラウドで運用すれば、ビジネスを取り巻く環境の変化にスピーディに対応できるシステム基盤を整えつつ、運用負荷を軽減することが可能です。また異なる地域のクラウド基盤を組み合わせることで、災害発生時でも継続してシステムを利用できる環境を容易に整えられることも大きなメリットでしょう。



クラウドは複数サービスをうまく活用する時代に！

現在、クラウドサービスは数多くの種類が提供されており、競合との差別化のためにユニークな特長を備えているものも少なくありません。このように多様化するクラウドサービスを活用するため、複数のクラウドサービスを一元的に管理できるサービスも登場しています。

たとえばNTTコミュニケーションズでは、自社のサービスである「Enterprise Cloud (<http://www.ntt.com/business/services/cloud/iaas/enterprise-cloud.html>)」に加え、Amazon Web ServicesやMicrosoft Azureなども一元的に管理することができる「Cloud Management Platform (<http://www.ntt.com/business/services/management/operations-management/cmp.html>)」を提供しています。クラウドのさらなる活用を考えるのであれば、こうしたサービスも視野に入れておくべきでしょう。





これからのクラウド選びに求められる”攻め”と”守り”2つの視点

これまでのクラウドに期待されていた役割に、既存システムの運用コスト削減や運用負荷の軽減が挙げられます。こうした“守りのIT”はこれからも重要であり、その精度を高める上でクラウドが最適なインフラであることは間違いありません。

これからのクラウド選びを考えると、もう1つ重要な視点となるのが“攻めのIT”です。ビッグデータやIoT、AIといった最新のデジタル技術を活用し、新たな事業を創出する、あるいは革新的なサービスを提供するといった取り組みは、今後のビジネスを考える上で極めて重要でしょう。

クラウド業務で課題をお持ちのお客さま

フリーダイヤル/ナビダイヤル回線から便利な機能まで、お客さまニーズに合わせた最適なソリューションをご提案いたします。



0120-106107

受付 | 9:30 ~ 17:00
時間 | (土日祝日を除く)